

## 別記様式(第4条関係)

## 会議録

会議の名称	加東市民病院経営健全化基本計画評価委員会
開催日時	平成30年6月12日(火) 14時から15時30分まで
開催場所	加東市民病院 会議室
議長の氏名 (委員長代理 三木 秀文)	
出席及び欠席委員の氏名	
出席委員：西山 敬吾、松浦 千秋、三木 秀文、小西 勝之、藤井 和美	
欠席委員：浅野 良一、高橋 優	
説明のため出席した者の職氏名	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
病院事業管理者 金岡 保、事務局長 大橋 武夫、看護部長 黒崎 良子、 ケアホームかとう事務長 中村 勇、経営企画課長 大末 美佳、 総務課長 堀田 敬文、医事課長 山口 文明、経営企画課主査 村上 計太	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名	
1 開会	
2 挨拶 (病院事業管理者)	
3 病院事業管理者プレゼンテーション (経営健全化に向けた取り組みー全適後1年2か月を経過してー)	
(質疑応答)	
委員 かかりつけ医と連携していくには逆紹介が重要である。	
委員 かかりつけ医が無床診療所の場合、いざというときに入院できないことを心配する高齢者の方がいる。かかりつけ医の後ろに加東市民病院があれば住みよい加東市になる。	
委員 加東市民病院は、看護師の評判がいい。大きな病院ではなく、かかりつけ医からここに紹介してもらえたら、家族も来やすいし、安心だという声が多くなってきている。	
委員 この2年経営が上向いてきている。入院患者数が戻ってきているのが一番大きな原因である。院長の考えの方向性は間違っていない。市民にもっと院長の考えが浸透すればと思う。	
委員 かかりつけ医と市民病院が持ちつ持たれつになればいい。かかりつけ医と市民病院が競合する部分があるということは誰もがわかっていることであるが、信頼関係を壊すことなく紹介、逆紹介をうまくすれば病床が埋まっていくと思う。	
委員 病院事業に関しては、まだ伸び代があるように感じている。介護老人保健施設事業、訪問看護事業に関しては、病院に比べて伸び代が小さいように感じる。伸び代というのは収益の増加の可能性のことである。	
委員 病院はきれいにしておかなければならないので、資金がないからしないということではなく、計画的に修繕していかなければならない。	

委員 ケアホームかとうに入所できないという方がいるが、回転を良くすることはできないのか。

事務局 ケアホームかとうは、職員が回転をよくしているから入れないことはない。地域包括ケア病棟の在宅復帰率を考えたとき、ケアホームかとうは除外されてしまったから、自宅又は在宅とみなされる施設などに退院することを勧めている。

委員 有床診療所は在宅になる。

委員 逆紹介率が下がっているが、上げていくことはできないのか。

事務局 当院はDPCではないので逆紹介率が診療報酬に影響しない。だからこのようなことになっている。

委員 逆紹介率が下がっていることが開業医に公開されれば、紹介することについてネガティブ要因になる。

#### 4 協議事項（加東市民病院経営健全化基本計画進捗状況）の説明（事務局） （質疑応答）

委員 DPC病院は入院で検査をしても収益につながらないから、外来です。この病院はDPCではないから入院ではどうか。他の病院がしないことをして差別化すればどうか。外来を伸ばすのではなく、入院を伸ばす。伸びるところを伸ばすことが経営である。

委員 やはり地域包括ケア病棟の収益は際立っている。

委員 医師に関しては、院長の考えに賛同してもらえる方を採用していただきたい。

委員 給与費比率に関しては、民間の黒字病院では50%を切ってきている。それくらいまでしないと自立はできないと思うが、赤字でも公立病院だからしなければならないことはしなければならない。赤字部門を収益が上がる部分で補填していくという院長の考えはすばらしく、そういったことであるから一般会計から補填していると思っている。

委員 訪問看護が緊急対応してもらえるのがありがたい。

#### 5 閉会

平成30年7月 7日

委員長代理

三木秀文 